

編集後記

2020年は誰もが予想だにしなかった試練の1年となった。年末になってもコロナ禍のトンネルの出口が見えない。新しい授業様式が叫ばれ、対面授業ではマスクが必須となり、教員も学生も互いの表情が見えなくなった。オンラインでは空気感が伝わらず、学生の反応が直接感じられなくなった。本号の編集長をお引き受けする際には思いも寄らなかったことだが、偶然にも、まさに今までと異なる新たな「もうひとつの世界」を生きることを強いられたのである。

したがって、偶然頂戴した本号の特集テーマ「もうひとつの世界」は、結果的にはタイムリーな特集テーマとなった。悪夢のようなコロナ禍を当初はいわば「もうひとつの世界」と思っていた人も少なくなかったであろう。だが、小惑星探査機「はやぶさ2」の快挙やグレートコンジャンクションを知って銀河系へと思いを馳せたり、「くるみ割り人形」の音楽でクララの夢の世界へ誘われたりする中、筆者は時空間を超えたまだ見ぬ世界へと想像力がかきたてられ、思いを馳せ、厳しい現実から束の間解放される喜びを再認識する好機を得たと感じている。だから今は、前を向いて現実を直視し、コロナ禍後の「もうひとつの世界」を思い描く方向へと舵を切っていきたい。世界が「寛容」から遠ざかりつつある今、この災禍は、我々自身の生き方を問うために下された試練のようにも思える。人と人が直接ふれあえなくなって再認識した人の温もりは、何物にも代えがたい希望の灯火である。文学や音楽をはじめとする文化が創出し織りなす「もうひとつの世界」を研究対象とするのみならず、さまざまな形で関わることを選んだ我々には、寛容の精神から生み出される、体温の感じられることばや芸術で、想像力逞しく、新たな「もうひとつの世界」を提示できるのではないだろうか。

本号より書式の変更と全論文の査読制がスタートした。新様式でご寄稿を賜った執筆者の皆様をはじめ、査読をご快諾くださった方々にはこの場を借りてあつくお礼申し上げます。また、拙き編集長をご教導くださった沼野恭子所長と幹事の皆様、そして献身的に編集業務にあたってくれた若き研究者の方々にも衷心より感謝の辞を捧げたい。

(佐々木あや乃)



投稿規定

1. 『総合文化研究』は、東京外国語大学総合文化研究所の研究活動の成果ならびに所員の研究成果の発表のために、同研究所の責任において編集・刊行される。なお、本誌掲載の論文等に関しては著者が著作権を有するが、著作権法で規定する複製権及び公衆送信権については、著者は国立大学法人東京外国語大学にその使用を許諾するものとし、本誌掲載論文等は同大学によって電子化・公開される。
2. 『総合文化研究』は原則として年度ごとに1号を発行する。同研究所は同誌発行のために編集委員会を置く。
3. 投稿は、同研究所の所員ならびに同研究所の研究活動に寄与した者が執筆した、未発表の論稿に限る。
4. 編集委員会は、必要に応じて外部の者に寄稿を求めることができる。
5. 内容区分は「特集論文」「自由論文」「随想・創作」「書評」「報告」とする。
「特集論文」: 特集テーマに沿った、執筆者自身による未発表の研究論文（10,000-20,000字程度、英文要旨、キーワード）。
「自由論文」: 特集テーマ以外の、執筆者自身による未発表の研究論文（10,000-20,000字程度、英文要旨、キーワード）。
「随想・創作」: 執筆者自身による紀行文、エッセイ、詩や小説等（20,000字以内）。
「書評」: 書評・新刊紹介等（8,000字程度）。
「報告」: 同研究所で開催した講演会・シンポジウム等の報告（1,200-2,500字程度）。
6. 上記5つのカテゴリーのうち「特集論文」および「自由論文」は査読制とする。査読者による査読を経て、最終的に編集委員会が掲載の可否について決定する。
7. 原稿は、横書きで脚注とし、参考文献は本文の後に付すこと。なお、使用言語は特に制限しない。ただし、印刷の都合上、言語によっては、写真製版用完全原稿を要求することがある。
8. 写真・図表等は完全原稿とし、希望の大きさと挿入箇所を指定すること。
9. 投稿原稿は、返却しない。

Trans-Cultural Studies, Vol. 24
総合文化研究 第24号

2021年2月16日発行

責任編集 佐々木あや乃

編集スタッフ 安島里奈 井伊裕子
奥村文音 新谷和輝

発行 東京外国語大学 総合文化研究所
〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
電話 042-330-5409
Fax 042-330-5410
Web <http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ics/>
e-mail tufs.ics@gmail.com